

2. 評価指標例、評価方法例(具体的な評価方法の説明)

(1) 評価指標の設定方法

以下は、上記の「評価の枠組み」の考え方および現行の策定指針の施策体系を踏まえた評価指標のイメージ図である。具体的な評価指標例については、別紙で提示している。

各自治体においては、別紙の評価指標例を参考に指標を設定し、点検・評価を行うことが望ましいが、上記の「1. 評価の枠組み」に沿った考え方に基づくものであれば、各自治体独自で工夫した手法とすることが考えられる。

別紙では、各施策の大項目ごとに考えられるアウトカム指標を例示しているが、すべての施策単位で設定する必要はなく、自治体が重点とする分野を中心に、評価の必要性に応じて設定して構わない。

自治体独自の評価指標、評価方法については、「利用者の視点に立ち」、「計画のPDCAサイクルの実効性を高める」という視点からも、地域住民や子育て支援関係者等の意見を踏まえて、検討することが望ましい。

評価指標のイメージ図

施策		個別事業レベルの評価指標(アウトプット)	施策レベルの評価指標(アウトカム)				計画全体の評価指標(アウトカム)		
大項目	中項目		個別事業	認知度・理解度	利用率	達成度		意向度等	既存指標データ
						実績評価	既存指標データ		
地域における子育ての充実									
地域における子育ての充実	ファミリーサポート・セーター事業	××箇所	・支援内容の認知度 ・支援目的の理解度	・支援の利用率(サービス対象者に占める利用者の割合) ※以下の施策レベルにこそ、同様	-	・地域のサービス・施設が利用しやすいと感じる割合 ・地域の中での子育てに満足している割合 ・地域の子育て支援サービスなどの情報が見つけやすいと感じる割合 ・母子保健施設と地域の子育て支援サービスの連携がとれているか	【★子育てに関して不安感や負担感を持つ保護者の割合】	●出生数	
	子育て短期支援事業(ショートステイ事業)	××箇所							
	子育て短期支援事業(トワイライトステイ事業)	××箇所							
	地域子育て支援拠点事業	××箇所							
保育サービスの充実									
保育サービスの充実	通常保育事業	××人	【★希望した時期に保育サービスを利用することできた利用者の割合】 ・保育サービスが利用しやすいと感じる割合	●保育所在り率(公私別) ●待機児童数(年齢別) ●保育所において保育枠を確保している施設割合	●保育所在り率(公私別) ●待機児童数(年齢別) ●保育所において保育枠を確保している施設割合	・現在の家庭・地域環境において、もう一人子どもを産み育てたいと思う割合 ・希望する子どもの数と現実の差	●合件外来出生率 ●世帯あたり子ども数		
	病児・病後児保育	××箇所							
	延長保育事業	××箇所							
	休日保育事業	××箇所							
	夜間保育事業	××箇所							
	特定一時保育事業	××箇所							
	…事業	××箇所							
…事業	××人								
…事業	××人								
							◇児童のいる世帯の母親の就業率	◇出産、育児理由と非労働者の割合	
							◇「育児」、「子供の教育」に対する悩みやストレスのある父母の割合		

①個別事業レベルの評価指標

- ・ 個別事業のうち、事業目標を設定した事業については、当該個別事業の実績を把握することが望ましい。事業目標を設定していない事業についても、必要に応じて各